

5 第4期計画の振り返り

(1) 第4期計画における主要な取組

第4期計画の期間である平成26年度から、「高齢者に関する取組」「障害者に関する取組」「子どもに関する取組」「分野をこえて地域のつながり・支え合いを支援する取組」の4つを主要な取組として実施してきました。

①高齢者に関する取組

○ 地域包括支援ネットワークの構築(地域ケア運営委員会・地域包括ケア連絡会議)

→地域包括支援ネットワークの構築(地域ケア会議)

高齢者が地域の中で安心して、継続して暮らし続けられるよう、高齢者の地域における課題の抽出や見守り体制及びネットワークを構築するため、地域ケア会議(個別ケア会議・地域ケア圏域会議・区地域ケア推進会議)を実施しました。

個別ケア会議と地域ケア圏域会議は地域包括支援センターが中心となって、関係機関や民生委員など地域住民と共に個別課題や地域課題を検討し、問題解決のためのネットワークを構築し、必要な地域資源の検討を行いました。

区地域ケア推進会議は区役所が中心となって、地域包括支援センター、介護支援専門員連絡会、社会福祉協議会、医師会、市立病院、認知症ネットワーク、民生委員・児童委員、基幹型障害者相談支援センター等のメンバーと個別ケア会議や地域ケア圏域会議で抽出された地域課題について、その検討等を通じて、関係機関のネットワークを構築するとともに、資源開発や地域づくり等を行い、区内の地域包括ケアシステムを構築しました。

○ 多摩区健康ウォーク体験教室

平成20年度から区とボランティアが協働で実施していた多摩区健康ウォーク体験教室(月1回程度)を、より身近な場所での仲間づくり、ウォーキングの習慣化を目標に、平成28年度から地区ウォークに変更しました。

地区ウォークは、多摩区ウォーキング推進委員会が区内3地区(稲田・登戸・三田)で月1~2回、健康づくり・介護予防を目的として実施しています。身近な場所で安全に楽しく続けられることを目指した、地域の魅力を再発見できるような季節感あふれるコース選びが好評です。それぞれの地区担当保健師が運営の相談に乗ったり、地域住民に紹介したりしています。



生田緑地での地区ウォーク

②障害者に関する取組

○ 多摩区地域自立支援協議会

定例会、企画運営会議と課題に合わせた委員会を発足させて、活動している。定例会では、委員会の報告、市の地域自立支援協議会の報告、課題についてのグループディスカッションを行っている。企画運営会議は、定例会の内容確認、委員会活動の調整等を主に行っている。委員会は現在3つの委員会が活動していて、児童委員会では障害児を支援している事業所の集いを開催し、課題の抽出や情報交換が行われている。広報委員会では広報誌を年1～3回作成し、普及啓発に向けた取り組みを実施している。相談支援委員会は、指定特定相談支援事業所を含めた区内の相談支援事業所の集いを実施し、相談支援の充実に向けた関係づくりと情報交換等を行っている。

○ 多摩区精神保健福祉連絡会議

平成26年度は家族支援、平成27、28年度は児童・思春期をテーマとして、講演会を中心に普及啓発活動を実施した。平成29年度は、引き続き児童・思春期をテーマとして、講演会を実施する予定である。平成25年度に家族向けに実施したニーズ調査から、相談機関先の情報がわからないという結果を受け、講演会のチラシの裏面に、相談機関の紹介を載せ、町内会で全戸回覧を実施した。児童・思春期におけるメンタルヘルスに関する講演会では、早期発見、早期介入の大切さを伝えていった。講演会を効果的に実施するために、広報や講演会の部会を立ち上げ、準備を重ねて、講演会を実施している。

○ パサージュ・たま

障がい福祉に関する理解と関心を深めるために、障がいに関する活動をしている団体・作業所等が運営を担当し、活動紹介、普及啓発活動、相談コーナー、作業実演、展示等を多摩区役所1階アトリウムで年11回開催しています。より多くの区民に会場してもらえよう、市政だより、区ホームページやチラシ等で広報を行っています。

③子どもに関する取組

○ 多摩区こども総合支援連携事業

区内の子ども・子育て支援団体や施設、機関等と「多摩区こども総合支援連携会議」を開催し、子育てに係る課題の共有や施策事業の検討を通じて、地域全体で子育て支援に取り組む地域づくりを推進してきました。また、多摩区を5地区に分けた「地区会議」では、ワークショップ等を通じて、各地区の実務者の顔と名前が一致し、お互いの役割を認識し、普段から繋がれる関係づくりを構築することができました。

○ 多摩区こどもの外遊び事業

少子高齢化や親の共働きに代表される家庭のあり方やライフスタイルの変化、また、都市開発による空き地の減少に伴い、昔のように子どもが外で遊べない状況が生じていることから、多摩区の豊かな自然環境の中で外遊びの場を提供してきました。また、地域の理解も高まり、地域での人のつながりづくりの場になりつつあります。

③分野をこえて地域のつながり・支え合いを支援する取組

○ 地域福祉ネットワークづくり事業

→多摩区地域包括ケアシステム推進事業

平成26年度には、地域福祉活動をしている団体同士が、お互いの活動を知り、顔が
つながる関係を構築するための「地域でつながりひろがる交流会」を開催し、各団体の
活動に対して、別の団体からの意見をもらうことで、団体同士のつながりを深めること
が出来ました。

平成27年度には、地域住民同士や団体が防災を通じてつながるイベント「防災ウォ
ーキング」の報告及び地域での事例活用を目的とした懇談会やパネル展示の実施しまし
た。地域住民とワークショップや報告会を重ねることで、互いに顔見知りの関係が深ま
り、活動に一体感が醸成されました。また、住民主体の新たな活動団体が組成され、地
域課題解決の取組に拍車がかかりました。

平成28年度からは、地域包括ケアシステム構築に向けて、多摩区内の各地域で様々
な団体と共に、地域特性に応じたモデル事業などの取組を行うことで、意識の醸成や住
民の参加・活動を促進が出来ました。

また、「チーム・たま」への運営支援を通して、医療・介護に従事するさまざまな職
種の結び付きを深めることや、市民公開講座の開催により、在宅療養や看取りへの関心
を高めることが出来ました。

○ 地域福祉啓発事業

普段、地域福祉に関わりが少ない区民を対象に、楽しく地域福祉を啓発するための落
語や演劇などのイベントを開催し、人とのつながりや地域とのつながりを意識してもら
うことが出来ました。また、認知症サポーター養成講座の開催により、小中学生の共生
意識の醸成や、DVDやリーフレットで地域づくりの実例を紹介することで、地域活動
への理解を深めてもらうことが出来た。

○ 地域課題解決につなげる地域人材育成事業

平成26年3月の「多摩区地域人材育成基本方針」の策定から3年を経過し、区民主
体のまちづくりの推進、持続可能な市民活動の活性化に向けた地域活動の担い手の発掘
と育成、地域人材のネットワークづくり等に取り組んできた。平成29年度には、区内
の地域人材育成の効果的・効率的な手法や事業のあり方等について関係部署・機関と共
に検証を行って課題を整理し、モデル事業を実施することにより区民意見を聴取・反映
して、「新・多摩区地域人材育成基本方針」を策定する。